

発行所 全日本建設交運一般労働組合
栃木県本部 〒327-0315
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1
0283-62-7312 fax 0283-62-7318
http://www.dumptcg.org/
E-mail:kenkourou@dumptcg.org

とちぎ ぎの建交労

トラックからの転落事故 労災認定求めて再審査

**極寒のなか
死に直面**

丸井誠司さんは日光市にある株式会社山田運輸店でドライバーとして働いていました。平成二十五年二月、丸井さんは茨城県常陸大宮市にある「道の駅みわ」でトイレに行くため大型トラック運転席から降りる際、ステップから足を滑らせて転落し背中を強打したことに、首から下の感覚が麻痺して立てなくなりしました。

午前五時頃でまだ暗く、周囲には誰もいませんでした。氷点下七度、八度という極寒のなか、凍死の恐怖に襲われました。

幸い犬の散歩をしていた人に発見され、一命を取りとめることができましたが、脊髄硬膜外血腫と診断され、下半身の麻痺症状が残りました。現在も懸命にリハビリを続けています。労災であることは明らかです。ところが……。

**予断に満ちた
労基署の姿勢**

労災申請を受けた日光労働基準監督署は、当初から極めて不誠実な対応でした。担当官は相談に行つた丸井さんの奥さんに

対して、机に足を上げ新聞を読みながら「病気が怪我がわからないものはダメ」などと大

声で怒鳴り請求書すら渡しませんでした。また会社も労災申請に非

協力的でした。困り果てた丸井さんは労働相談センターに相談し建

交労を紹介されました。組合では日光労基署の不誠実な対応に抗議するとともに、早急に労災認定するよう要請

**第一発見者の
証言を無視**

駐車場に倒れている丸井さんを最初に発見したKさんは、日光労

基署から発見当時の状況について聞き取り調査を受けていました。Kさんは倒れている丸井さんに「どうしたんですか」と声をかけ

たところ「トラックから落ちた」と丸井さんが答えたことを明確に証言していました。

ところがなぜか、この最も重要な証言を日光労基署は無視しています。さらに運転中発症した根拠として、トラックのタコメーターチャート紙の走行記録が不自然であることを

あげていますが、県本部トラック支部組合員の走行検証により、何ら不自然でないことが明らかになっていました。

**ご労災認定
支援を定**

栃木労働局は審査請求を棄却、現在再審査請求を行っています。六月二十三日、労働

「多くの労働者が泣き寝入りしています。認定を勝ち取るまでがんばります。ご支援よろしくお願ひします」。



6月23日、労働保険審査会での審理に出席した丸井誠司さん(中央)。「思ったよりも短時間で終わってしまった。審査官にはもっと話を聞いてほしかった」。

佐野で「戦争法案反対集会」 いまこそ声をあげよう



佐野地区労や市民団体等との一点共闘が実現。市内をパレード。(背景は建設中の新市庁舎)



ダンプ支部、フコックス支部からも8名が参加。なぜか警察が交通整理せず約1名「存立危機事態」に。

六月十四日、佐野駅前、本中で反対の世論が高まって「戦争法案」に反対する市民が集まり、約二百五十人が参加しました。市内各所で行われる宣伝行動に可能な限り参加して、この日は工藤委員長、石を進行しました。

憲法審査会で与党推薦の学者も「戦争法案」を憲法違反と指摘。同審査会責任者が本県選出の自民党船田元議員。ご本人は「(人選)ミスだった」と困っているようですが、この功績は大きいと思います。